

Relationship

JTSU-E Shinagawa Mail News



JTSU-E 品川支部

JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS UNION-SHINAGAWA

2021.6.5
NO.060

～防災現地行動～

現地の人たちのことは

岩手県釜石市 いのちをつなぐ未来館スタッフのことは

震災当時、私は中学生だった。近隣に小学校もあり、小学生の男の子の手を引いて避難した。男の子は、とても暗い表情をしていて、何とか不安を取り払おうとして話しかけたが、ずっと暗い表情をしていた。そんな表情をしながらも、男の子は私と手をつなぎ、必死に走ってついてきてくれた。

メディアなどでは「釜石の奇跡」と言われているが、奇跡と言われることに違和感があった。私たちが迅速に避難できたことは、学校で日頃から防災教育を受けていたからであり、特別なことではない。まずは「命を守ること」を優先することが大切。

宮城県 元・南三陸町職員のことは

未曾有の災害を経験してわかったこと。防災グッズなどの「モノの備え」も大切だが、「心の備え」も大切だということ。南三陸町で犠牲になった人の中には「体が動かない親族がいる。その親族を置いて1人で逃げることなどできない」と言い、共に犠牲になった人がいる。しかし、そういったものに捉われることなく、日頃から家族の中で災害に備えるための新たなルールについて話し合い、避難についての決め事を定めておくことが重要。

Changing Minamisanriku ～南三陸町民のことは

- ・震災で商業や店舗も壊滅的な被害を受けたが、「このままではダメ」と前を向き、商業関係者が一致団結し、復興にかけてきた。最後は「人同士のつながり」が物を言う。 (飲食業)
- ・震災以前、牡蠣の過剰養殖の問題があった。しかし、震災を境にあえて養殖量を少なくし、牡蠣の成長が早くなった。資材代のコストダウンにつながり、海洋環境保全にも一役を買っている。働き方や生活の質が格段に良化した。 (牡蠣養殖業)

東日本大震災の経験談について、現地の方々の言葉を直接この耳で聞くことほど心に伝わるものはありません。当時は苦しい体験が多かったと思いますが、東日本大震災をきっかけに地元住民が考えを改め、プラスの効果を生み出したという面もあります。現地に赴き、現地の人たちのことは聞くことで、私たちの日常生活においてどのような災害対策を取るかというヒントを得られることができます。

「生きていれば会える」、日常の防災対策や互いの信頼が命を守ります！